

八中3年人権だより

徳島市 八万中学校
3年生 第3号
2024年 5月 8日
編集・発行 吉成正士

(第2号からのつづき)

「このような発表」を聞いて良かった

「このような発表」とは、「すぎきし道」がとても心に残りました。」と、始まりました。

「私には一つ大きな悩みがあって、それは肌のこととか髪のことです。私は家族のなかで私だけみんなとは違って、肌はすごい乾燥とかしてて、髪もすごいうねったり、ちりちりになって。なんでみんなとは違うんだろうとか、なんで自分だけこんな苦勞をせなあかんのだろうとか、何回も思いました。それで一回、母に八つ当たりのことをしてしまって。今思えば、産んでくれた人に何を文句言っていたらうとか、凄い悲しませたらうなと思います。でもこのことをきっかけに、縮毛矯正をすることになりました。一番初めにかけたときは、凄い自分の髪じゃないみたいとか、いっぱい思いました。今でもすごいうれしかったのを覚えています。」(4組藤川七海)

それについての感想になります。

■私は今回の人権学習で、とても共感ができる発表がありました。それは、Fさんの発表です。私も昔からせ毛に悩まされていて、幼稚園のころからヘアアイロンを使わないと外に出られませんでした。ですが、小学6年生の時に修学旅行でヘアアイロンをもっていくのを禁止され、初めて縮毛矯正をかけました。私もFさんのように自分の髪ではないような感覚になりました。周りに縮毛の人が少ないので、今回このような発表を聞いて良かったです。縮毛ではなく、直毛の人に、「髪がまっすぐすぎて巻いてもパーマを当ててもすぐに戻る」という悩みを聞いたことがあります。私は直毛の人はうらやましく感じていましたが、それはそれで苦勞することがあるのを知りました。このような話はなかなか普段の生活の中ですることが少ないので、人権学習でもこんな内容の話題が増えてほしいです。そして、人それぞれの個性はもちろん、自分の個性も認めたいようになります。私は、ないものねだりをよくしてしまいましたが、自分の良さに気づけると、それも減るのではないかと思います。人それぞれ持っているものは違うので、互いに認め合いながら、自分の良いところも見つけられるようになります。 4組宮本風香

Fさんの発表に感謝ですね。これも大切な人権課題であり、人権学習なんです。「ルッキズム」という人権課題になりますが、声にしてないだけで、見かけで悩み、苦勞している人、共感できる人は、結構多いのではないのでしょうか。やはり、こうやって声にしていくことだと思います。声にしていくことで、胸にポツと火が灯ります。あたたかい気持ちになります。自分に自信が生まれます。「自分は人権なんて関係ない」と思い込んでいる人が、気づいてなかっただけで、自分事であったことに気づきます。こんな気持ちでいたこと、お家の人にも聞かせてあげたいなって思います。

感想を書いてくれたあなたにだって、良いところたくさんありますよ。それを具体的に伝え合う学びの場があつていいのかもしれないね。

私が学生のころ、パーマを当てている友達がいました。何人も。世間一般では、「不良」といわれていたのかもしれませんが。中身は結構みんないいヤツだったのですが、見かけで判断することが強い時代で、パーマを当てるのが学校として禁止されるようになりました。でも時代は進み、パーマはパーマでも、縮毛によるストレートパーマを当てる子が出てくるようになって、学校の姿勢も柔軟に変化してきました。

同じく髪の色についても、染めることが禁止されていきました。ところがなかに色素の薄く、もともとの地毛が明るい子がいました。これについてはなかなか柔軟な姿勢になれず、学校によっては黒に染めるように指導しているところもありました。それでも少しずつ、その子の個性を尊重するように変わってきたように思います。でもそう考えていくと、変えてはいけないものなのか、変えなければいけないものなのか、よく分からなくなります。



一方で、個が尊重されるようになってきたものの、あえて全体に合わせることもあります。Fさんの発表だったり、感想文を書いてくれた人のように。つまり、それぞれにそれぞれの理由があるということなのだと思います。

以前、アトピーの子どもをもつ親御さんから、「アトピーの子どもをもつ親の思いは、同じアトピーをもつ子どもの親にしか分からない」と聞いたことがあります。「だから孤立しないために、同じ立場の親と思いや情報を共有することは大事だ」と。同様にその方は、「被差別部落をルーツに持つ思いは同じ立場の者にしか分からない。だから(同和対象地区)学習会は大事だ」とも言われました。なるほど、と思いました。

でも、同じ立場でなくては分からないこともあるけれど、それでもそれをあえて乗り越えて分かり合おう、伝え合おうとする人もいます。そんな場面に出くわすと、「本当はもっと分かり合えるのではないかな」と思ったりします。確かに分かり合うことは難しく、実際に分かり合えないこともあるのですが、だからとい

って初めから諦めたり、チャレンジしないのは違うように思います。せめて互いがどんな思いでいるか、ということくらいは、知っておいてもいいように思うのです。皆さんの姿を見ていて、そう思います。



思い出が大きくなる

■私は、別れは自分を強くするため、成長させるものだと思います。私たちは今年で受験生になって、来年から今の学年の友達やお世話になった先生方に会うことが減っていくと考えると、今のこの瞬間や一緒に学校の行事ごとをしていく時間一つ一つ大切にしていきたいと思いました。今回の人権学習で、みんなの発表を聞いていくなかで一番印象に残ったのは、Fさんの発表です。「思い出が大きくなる」というのが本当に共感しました。日々私たちは当たり前のように人と関わり合いながら生活していますが、その当たり前が当たり前じゃなくなったときに、後悔したり、相手との楽しかった思い出がふくらんできたりして、当時よりもその人との思い出が大きくなっていくと思います。私はこれから何が起きるのか分からないからこそ、命を大切に、これから感謝の気持ちをもって生きていこうと思います。

5組上元絵璃

Fさんは、こんなふうに発言してくれました。

「認知症のひいばあちゃんのことで、前の土曜日に突然電話がかかってきて、そのひいばあちゃんが、手の動脈が1時間おきに30回ぐらいしか動いてなくて。一応手術はしたっばいんですけど、でもそのとき知らされた私には、昔の記憶が多くよぎって。ひいばあちゃんとの思い出が、今の思い出もそうだけど、どの思い出よりも大きくなりました。今は病院で念のために入院してるんですが、ひいばあちゃんにもし私ができることがあるならば、どんなことでも頑張っけて乗り越えていこうと思います。」(5組藤井葵)

もし命が永遠なら、時間を大切にする必要がなくなります。いつまでも生き続けられるのですから。それと同じで、別れが来ないなら、一瞬一瞬を大切にする必要はなくなってしまいます。いつまでも一緒にいられるのですから。でもそうじゃないことが分かっているから、行事の一つ一つを、この一瞬を大切にしようと思えるのだと思います。命には限りがあり、出会いには限りがあるから、今日この一日を大切にしようとするのだと思います。残りわずかとなった私たちの思い出、たくさん作っていきましょうね。その思い出たちが、きっと卒業後の皆さんが生きていくためのいしず

えとなってくれるはずですよ。

報われるためにする努力じゃなくて

■努力の話のときに、一つ思い出したことがあって。誰が言ったか、というのは覚えてないけど、「100回たれば壊れる大きな壁がある。しかし人は、何回たればその壁が壊れるのか分からないから、99回のところでやめてしまおう」という言葉を聞いたことがあります。それともう一つ、「努力をしない者は、偽物の理想に踊らされる。努力をする者は悲惨な現実を知り、それ以上に努力をした者は輝かしい現実を知る」という言葉です。努力は必ず報われるとは限らない。でも、すべてがそうとは限らないと思います。最初の言葉から考えるなら、努力をした人の努力が足りないというわけではないけど、100回たけなかつたり、途中でたたくのを止めたりしてしまったのかと思いました。止めた理由が、先の見えない絶望や、2つ目の言葉から考えると、悲惨な現実を知り絶望したから、努力ができなくなってしまったのかなのかなと思いました。私は努力がすごく嫌いでした。でもそれは、中途半端な努力しかしてなくて報われないからです。でも努力が必ず報われると限らないから努力をしないのではなく、報われる報われないということに関係なく努力できる人が、唯一報われるのではないのかなと考えました。私はこれから、たくさん努力しなくてはいけないので、報われることは関係なしに、全力で努力しようと考えました。 5組田村奏音

私も努力という言葉が嫌いです。大の苦手です。できることなら避けたいことです。でも、どうせするのなら、ストイックな感じで努力するのではなく、楽しく努力がしたいと思っています。

書きたくて小説を書いたことがあります。でもそれはとてつもなく大変な作業で、書いている最中は、ずっとそのことばかりを考えています。寝ても覚めても、明けても暮れてもそのことが頭から離れません。でも、そんなに苦しいならやめればいいじゃない、と思うのですが、その選択肢はなくて、ねばり強く、本当にねばり強く、あれやこれやと思いを巡らしながら書き進めていくのです。そうしてやっとの思いで、本当にやっとの思いで、完成するわけです。だから出来上がった作品は、我が子のような感覚です。

「報われない努力」については、特に理不尽に断られた命を考えると、この言葉について深く考えます。それは、戦争や争いで命が奪われたとき。自分には何の罪もなく、事件や事故で突然命が奪われたとき。差別やいじめで、命が虫けらのように奪われたとき。どうしてうちの子が？ どうしてあの人？ どうして自分が？ どうして？ どうして？ どうして？ と、答えのない反問ばかりを繰り返すのですが、そこに答えはなくて、自分の中で納得させるしかないのです。この人はいったい何のために生まれてきたのだろうか、生まれてきた意味があったのだろうかとか、そんなことばかりが頭をよぎるのです。そんなことを思ってもどうしようもないということが分かっているけど、考えてしまいます。だからこそせめて、その思いが無にならないように、人の命について考える人権学習をしていきたいのです。(第4号につづく)